

3. 新聞等に掲載された活動

国際保健医療福祉学研究分野（原研国際）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
高村 昇・教授	長崎大学が新年度「東日本大震災・原子力災害伝承館」で開催予定のセミナーについて紹介された。	長崎新聞	2020年3月11日	長崎大学は新年度から、福島県双葉町に今夏開館する「東日本大震災・原子力災害伝承館」を活用し、災害や被ばく医療の現場で活躍できる人材の育成のため、セミナーを開催する予定。災害・被ばく医療の講義のほか、福島県沿岸部での放射性物質測定実習や、参加者によるグループ討論などを予定している。
高村 昇・教授	震災と原発事故の発生から9年を迎え、長崎新聞社の取材を受け福島支援の課題や展望を伝えた。	長崎新聞	2020年3月11日	震災と原発事故から9年、今後はそれぞれの復興フェーズにあわせた復興支援が必要。長崎大学と福島県立医科大学の共同大学院の成果と課題、被災地長崎の長年の取り組みを基に具体例や展望を伝えた。
高村 昇・教授	長崎大学発行の「放射線・放射性物質Q&A」第五巻を富岡町及び大熊町に寄贈した。	福島民報	2020年3月18日	3月17日に「放射線・放射性物質Q&A」第五巻の贈呈式が各町役場で行われ、町長に冊子を手渡した。贈呈数は富岡町が8千部、大熊町が5千部、町内全世帯に配布予定。
高村 昇・教授	長崎大学より、「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	長崎新聞	2020年4月1日	長崎大学は、開館予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表し、就任にあたり長崎新聞社の取材を受けた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	福島民報	2020年4月1日	福島イノベーション・コースト構想推進機構が、開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表した。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	福島民友	2020年4月1日	福島イノベーション・コースト構想推進機構が、開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表した。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長に就任することが発表された。	河北新聞	2020年4月1日	福島イノベーション・コースト構想推進機構が、開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に就任することを発表した。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として、新聞社のインタビューを受けた。	福島民友	2020年4月14日	福島県が、双葉町に開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として、福島民友新聞社のインタビューを受け、抱負を述べた。

高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」館長として新聞社のインタビューを受けた。	福島民報	2020年4月14日	福島県が、双葉町に開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として、福島民報新聞社のインタビューを受け、抱負を述べた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」館長として新聞社の取材を受けた。	朝日新聞	2020年5月23日	福島県が、双葉町に開所予定の「東日本大震災・原子力災害伝承館」の館長として、朝日新聞社の取材を受け、抱負を述べた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として財界ふくしまより取材を受けた。	財界ふくしま7月号	2020年7月1日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が双葉町に開所。被災に関する多くの資料や映像を収集保存し後世に伝える拠点施設。初代館長として取材を受け、復興支援活動と功績について伝えた。
高村 昇・教授	長崎大学が長年取り組んできた、放射線医療の研究成果や被災地復興・核兵器廃絶に向けた取り組みを紹介。	長崎新聞	2020年7月16日	長崎大学原爆後障害医療研究所の教授として、長年にわたる被ばく医療研究の成果がチェルノブイリや福島復興支援の基礎になっている等伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」館長として就任あいさつのため福島民報社を訪問し社長と懇談。同日県庁で知事と懇談。	福島民報	2020年7月18日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の館長として就任あいさつのため、福島民報社を訪問し、社長と懇談した。同日県庁にて知事と懇談。抱負を述べた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として新聞社の取材を受けた。	福島民友	2020年7月18日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長として福島民友新聞社の取材を受け、「福島の人がやってきた復興の証しを示す」と抱負を述べた。
高村 昇・教授	エネルギーレビュー8月号に特集で記事が掲載された。	エネルギーレビュー8月号	2020年7月20日	チェルノブイリと福島第一の両原子力発電所事故、健康影響の観点における相違について、専門家として科学的知見を踏まえ詳しく意見を述べた。
高村 昇・教授	長崎大学が福島県大熊町と、包括連携協定を締結。	福島民報	2020年7月31日	長崎大学が、福島県大熊町と住民の帰還促進に向け、包括連携協定を締結した。締結式は町役場で行われ、活動内容を報道陣に説明した。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」開館にあたり、原子力文化に寄稿した。	原子力文化8月号	2020年8月1日	震災後10年あまりで蓄積された震災の記憶を国や世代を超えて伝えることが重要。福島の復興の証を次の世代に伝え経験を活かし国内外の人材を育成するために、学びに来た来訪者に十分な知識を提供したいと語った。
高村 昇・教授	復興支援オンラインセミナーにおいて、講義を行った。	長崎新聞	2020年9月9日	長崎大学が、東日本国際大、国立福島大、福島県立医科大と連携し、災害・被ばく医療や復興に携わる人材を育成する復興支援オンラインセミナーにおいて、講義を行った。

高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」開館し、新聞社の取材を受けた。	福島民友	2020年9月10日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の開館にあたり福島民友新聞社の取材を受け、施設の意義等について伝えた。震災と原発事故が発生し、福島が復興してきた9年半を振り返る場になるよう、展示資料や映像に加え風化防止のため語り部の講話を設けたことを紹介した。
高村 昇・教授	川内村コミュニティセンターで、東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興をテーマにオンラインセミナーを開催し、講演した。	福島民報	2020年9月12日	長崎大学原爆後障害医療研究所の企画とし、東日本国際大、福島大、福島医大と連携して開催。県内外の大学生約60人が参加。災害や被ばく医療・復興学などをテーマに講演やグループディスカッションなどを行った。講演では村の復興の現状や課題をわかりやすく伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」開館し、新聞社の取材を受けた。	福島民友	2020年9月20日	震災・原発事故から10年を迎えようとしている中で、「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館。震災と原発事故を振り返る場になるよう努めていくとし、資料を展示するだけでなく、語り部の講話を取り入れ、風化防止という大きなテーマがあると伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館し、新聞社の取材を受けた。	福島民報	2020年9月21日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の開館初日に福島民報社の取材を受け、「世界中の人が福島県の複合災害を『自分事』として捉えられるような施設にしたい」と意気込み等を語った。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館し、新聞社の取材を受けた。	日本経済新聞	2020年9月21日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」が開館し取材を受けた。館内では地域の日常から原発事故直後の状況、長期化する避難や復興に向けた取り組みを時系列で紹介する。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として新聞社の取材を受けた。	長崎新聞	2020年9月26日	2011年の原発事故以降の復興支援活動や100回以上の講演をしたことや、功績と復興活動が紹介された。福島県が実績と人柄を評価し館長にオファーしたとのこと。
高村 昇・教授	菅首相が「東日本大震災・原子力災害伝承館」を視察。	福島民友	2020年9月27日	菅首相が双葉未来学園を訪問し、復興へのエールを送った。その後、東日本大震災・原子力災害伝承館を視察。館長として案内し、首相は原発事故後の苦難と再生の道のりに理解を深めた。
高村 昇・教授	同上	福島民報	2020年9月27日	同上

高村 昇・教授	菅首相が「東日本大震災・原子力災害伝承館」を視察	長崎新聞	2020年9月27日	菅首相が9月26日、東日本大震災の被災地を視察するため福島県を訪問。福島第一原発を車中や高台から視察し、原発事故を後世に伝える「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学。
高村 昇・教授	環境放射能学セミナーが「東日本大震災・原子力災害伝承館」で開催。	福島民報	2020年10月4日	福島大環境放射能研究所の環境放射能学セミナーが、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を会場とし開催。初日に「放射線被ばくと甲状腺」の題で講演し、チェルノブイリ原発周辺地域での医療支援や福島第一原発事故の被災地における復興支援について紹介した。
高村 昇・教授	環境放射能学セミナーが「東日本大震災・原子力災害伝承館」で開催。	福島民友	2020年10月4日	福島大環境放射能研究所の環境放射能学セミナーが、「東日本大震災・原子力災害伝承館」を会場とし開催され、環境放射能研究と廃炉支援技術研究の最前線について紹介した。
高村 昇・教授	長崎大学が小熊町民を対象に放射線・健康をテーマとした交流集会を開催。	福島民報	2020年10月5日	放射線や健康をテーマとした交流集会。長崎大学原爆後障害医療研究所教授として、医師や放射線専門家の立場で講演。同研究所の松永助教が健康相談に乗る。
高村 昇・教授	福島大の学生らが東日本大震災・原子力災害伝承館を見学。	長崎新聞	2020年10月5日	福島大の学生らが「東日本大震災・原子力災害伝承館」を見学。館長として館内を案内し、学生は原発事故の記憶や復興について学んだ。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」初代館長として新聞社の取材を受けた。	岩手日報	2020年10月5日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」の初代館長に福島県のオファーにより就任したとし、これまでの道のりと功績が紹介された。
高村 昇・教授	長崎大学が東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からの復興をテーマにセミナーを開催。	福島民報	2020年10月17日	長崎大学が川内村で復興セミナーを開催し、各国研究者らが参加。川内村や富岡町の住民や医療従事者が復興の現状について紹介し、村長が講話を行う。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」でウェブ中継による「防災・伝承セミナー」を開催。	福島民報	2020年10月25日	一般財団法人「3・11伝承ロード推進機構」が、「東日本大震災・原子力災害伝承館」でウェブ中継による「防災・伝承セミナー」を開催。パネルディスカッションや基調講演を通し、事故の教訓をどう継承していくか考えた。館長としてパネリストを務め、伝承館を取り上げ施設を生かした伝承の重要性を伝えた。
高村 昇・教授	「東日本大震災・原子力災害伝承館」「双葉町産業交流センター」「県復興祈念公園」の合同開所式に出席し、トークセッションを行った。	福島民友	2020年11月8日	「東日本大震災・原子力災害伝承館」「双葉町産業交流センター」「県復興祈念公園」の合同開所式に出席しトークセッションを行った。伝承館は震災と原発事故の記憶と教訓を後世に伝える県の記録施設として9月20日に開館。

高村 昇・教授	修学旅行で福島県を訪れる県立長崎南高校生に対し、講演を行った。	朝日新聞	2020年12月23日	修学旅行で福島県を訪れる県立長崎南高校の生徒に対し、放射線医療の専門家として復興支援活動について講演を行った。
高村 昇・教授	長崎大学が川内村の復興支援動画を作成し紹介	福島民報	2020年12月30日	長崎大学が川内村で原発事故発生直後から取り組んでいる復興支援について動画を作成し、インターネットの動画投稿サイトユーチューブで公開。川内村は原発事故で一時全村避難した。2012年1月の帰村宣言を前に、村長より村の放射線量測定を依頼され、放射線被ばくに詳しい長崎大のスタッフが村内で住民の健康相談等に応じてきた。
高村 昇・教授	あぶくま信用金庫が静岡県沼津信金職員らとともに伝承館を視察し、復興の現状に理解を深めた。	福島民報	2020年12月30日	相双地域のガイドブックを製作したあぶくま信用金庫が静岡県の沼津信金職員らとともに伝承館を視察し、復興の現状に理解を深めた。

放射線災害医療学研究分野（原研医療）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
鈴木啓司・准教授	放射線の人体への影響	読売新聞	2020年8月7日	原爆投下から75年、放射線の人体への影響について、高い線量の放射線を浴びると、細胞の設計図となるDNAが傷つき、細胞分裂が止まらな「がん細胞」ができるとされてきたが、これだけではがん化を説明できないと主張、「高線量被曝で人体の自然な働きが大きく崩れ、がん細胞が排除されにくくなるとともに、がんがふえやすくなるのではないか」と新たな仮説を提唱。
松瀬美智子・助教	甲状腺がんの悪性度の違いを規定する分子メカニズム	長崎新聞	2021年1月12日	優れた研究成果を挙げた学内の若手女性研究者を顕彰する第5回「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」の授与式において、将来性に期待する「優秀女性奨励賞」を受賞し、活動科目について医学の先端的な研究を発表した。

血液内科学研究分野（原研内科）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と社会との関連
宮崎泰司・教授	原爆犠牲者慰霊祭举行	長崎大学HP	2020年8月18日	原爆死没教職員、学生の御霊を慰めるため例年実施されている。本年は被爆75年にあたり「原爆復興75周年記念事業」を進めてきた。本事業の報告を行った。

資料調査室（原研情報）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と 社会との関連
横田賢一・助教	「意義ある研究続ける」	長崎新聞	2020年7月29日	米国AFIP返還資料の内容について説明すると共に、原爆被爆者データベースを活用した入市被爆者に関する研究に関して説明を行った。

生体材料保存室（原研試料室）

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と 社会との関連
赤澤祐子・准教授	寄稿	肝類洞壁細胞研究会 Vol. 18	2020年4月1日	第33回肝類洞壁細胞研究会学術集会に参加したことについて感想等を述べた。